

ヒトの眼
(実寸)

巨大な眼

深海まで潜る種類の魚竜には、これまでに知られている生物の中で最大級の眼を持つものがあった。体長 3.5m のオフタルモサウルスの眼は直径 23cm もあり、体をヒトの大きさまで縮小すると、その眼はヒトの眼のほぼ 5 倍の大きさになる。

オフタルモサウルスの眼
(体をヒトの大きさに縮小したとき)

歯：魚竜の餌は多様で、それぞれ餌に合った歯を進化させた。丈夫な歯を持ち、鳥類やウミガメを食べるものもいれば、小さくて繊細な歯で軟体動物を食べるものもいた。歯を持たずに、餌を吸い込んで食べるものもいた。

デムノントサウルス

1814 年に初めて科学論文で取り上げられた魚竜³。体調は約 9m と巨大で、前期ジュラ紀の最高位捕食者だった。

海の怪物

「魚竜」と呼ばれる太古の海生爬虫類は、恐竜が栄えた中生代のほとんどの期間、海の支配者として君臨した。魚竜は陸生爬虫類から進化し、前期三畳紀に急速に多様化して、敏捷に泳ぐ、さまざまな形態と大きさの種が誕生した。中には、当時の海では最大の捕食者となったものもいた。

BY RICHARD MONASTERSKY AND TRACI WATSON
ILLUSTRATION BY ESTHER VAN HULSEN
DESIGN BY WES FERNANDES

鰭脚

魚竜の鰭脚は、陸上を歩くのに適した四肢から進化した。例えば前肢では、時間とともに前腕の骨が短くなり、「手」に新たな指ができてパドル型に近づいていったと考えられる。



ウタツサウルス

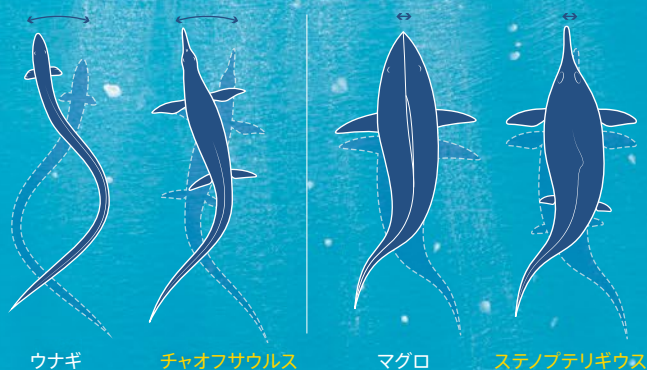
ミクソサウルス

オフタルモサウルス

プラキプテリギウス

泳ぎ方

初期の魚竜はウナギのように体をくねらせて泳いでいた。後のより進化した魚竜は背骨が硬くなり、マグロのように高速で泳ぐことができた。



ウナギ

チャオフサウルス

マグロ

ステノプテリギウス



餌：魚竜化石の胃の内容物から、ベレムナイトというイカに似た古代の動物を食べていた種や、各種の軟体動物、魚類、小型の魚竜を食べていた種もいたと考えられている。

色：化石に残された痕跡から、深海まで潜る種類の魚竜の皮膚は、現生の深海魚やクジラの皮膚のように暗い色をしていたと考えられている。

長い繁栄

魚竜は、約 2 億 5000 万年前に出現し、9400 万年前ごろまで、実に 1 億 5000 万年以上にわたり繁栄を遂げた。その間、魚竜の形態と大きさはさまざまに進化し、深海への潜水に適応したものもいれば、沿岸の浅瀬に生息していたものもいた。



1.8 m

1 億年前



プラテュプテリギウス

体長約 7m まで成長した。噛み跡がある化石が見つかっており、同種の個体同士で戦っていた可能性がある。

オフタルモサウルス

大きな眼やその他の証拠から、非常に深いところまで潜っていたことが分かる。



1.5 億年前

エクスカリボサウルス

長い上顎を持ち、カジキのように、頭部を振り回して獲物を叩いて狩りをしていた可能性がある。



2 億年前



ショニサウルス

体長は 20m 以上に達した。成体には歯がなく、獲物を吸い込んで食べていた可能性がある。



ミクソサウルス

初期の小型の魚竜で、体長 2m 未満のものもいた。

後期白亜紀

前期白亜紀

後期ジュラ紀

中期ジュラ紀

前期ジュラ紀

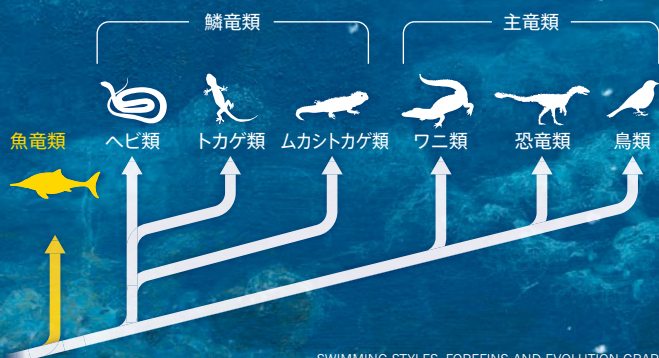
後期三畳紀

中期三畳紀

前期三畳紀

進化

魚竜の祖先はまだ明らかになっていないが、化石標本の分析から、鱗竜類と主竜類に分かれる前の爬虫類から分岐したことが示されている。



SWIMMING STYLES, FOREFINS AND EVOLUTION GRAPHIC ADAPTED FROM RYOSUKE MOTANI.